

## 交渉の議事要旨

(開催日時)

令和5年8月29日(火) 16:00～16:53(53分間)

(開催場所)

小樽開発建設部1階 第3会議室

(出席者)

当局側(小樽開発建設部)

遠藤 平(小樽開発建設部長)、柏倉 歩(小樽開発建設部次長)、

佐々木 伸行(総務課長)

職員団体側(全北海道開発局労働組合小樽支部)

熊倉 輝人(執行委員長)、成田 勇(副執行委員長)、木村 俊幸(書記長)

(議題)

- 1 超過勤務の縮減について
- 2 職員の健康安全管理について
- 3 ハラスメントが行われない職場環境の整備について

(要求書に対する回答)

要求書のうち、取り決めた交渉議題について回答(別紙のとおり)。

(要旨)

### 【議題1 超過勤務の縮減について】

(職員団体) 昨年度と比較して超過勤務時間が減少しているとの回答があったが、超過勤務が減少した理由を教えて欲しい。

(当局) 令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に引き下げられ、個人の選択を尊重しながらの自主的な感染対策の取組がベースとなったことから、ほぼ通常の勤務状況に戻ったと考えているところであり、コロナ禍の経験を契機とした、働き方に対する意識の高まり及び働き方改革の推進が、超過勤務の減少につながったものと考えている。

### 【議題2 職員の健康安全管理について】

(職員団体) 新型コロナウイルス感染症について、5類感染症に変更後はどのような対応を行っているのか。

(当局) 新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日から5類感染症に変更され、基本的感染対策(マスク着用、手洗い等の手指衛生等)や、その他の対策(検温、消毒液・パーティション設置等)については、個人又は各府省等の判断において行うこととされているところである。

また、感染対策の見直しに当たっては、感染対策上の必要性に加え、経済的・社会的合理性や、持続可能性の観点も考慮するとされているところであり、当局においても引き続き各職場の状況等を勘案しながら適切に措置して参りたい。

### 【議題3 ハラスメントが行われない職場環境の整備について】

(職員団体) 当部でハラスメントの事案があるのか。

(当局) 現在、当部においてハラスメントに関する相談を受けて調査を行っているものはない。

なお、職員からハラスメントに関する相談があった場合は、事実関係を詳細に調査し、ハラスメントの事実が認められた場合には、加害職員の処分の検討も含め厳正に対処していく考えである。

# 交渉議題に係る回答メモ

(2024年度勤務条件改善に関する要求)

令和5年8月29日

## (1) 超過勤務の縮減について

超過勤務の縮減については、職員のワークライフバランスを実現する上で、重要な課題であり、引き続き、職員の意識改革を含む働き方改革に取り組む必要があると考えている。

本来、業務は勤務時間内で処理することが望ましいと考えるが、業務の性質や時期によっては、超過勤務が避けられない場合がある。

当局としては、職場の超過勤務の実態等を踏まえ、業務運営の一層の簡素・効率化を図り、業務の円滑な進行管理を行うとともに、週休日及び休日出勤の縮減、定時退庁日における定時退庁の励行、フレックスタイムなど効率的な働き方の促進等により、超過勤務の縮減に努めているところである。

また、超過勤務を行う場合には、人事院規則等に定められた上限時間を踏まえるとともに、職員の健康を害しないように考慮しているところであり、今後とも、この点に十分留意するとともに、きめ細かな業務の進行管理に努めるよう、管理者を指導していきたい。

## (2) 職員の健康安全管理について

健康安全管理は、職員が職務を遂行する上で重要な問題であると認識しており、当局としては、毎年度策定する「健康安全管理計画」に基づき、各種の健康安全教育のほか、定期健康診断等による健康管理、職場の安全点検等による安全管理を計画的に推進し、職員の健康の保持増進と安全の確保を図っているところである。

令和5年度の計画においては、引き続き、心の健康づくり、生活習慣病対策等、長時間の超過勤務を行った職員の健康管理、公務上災害の防止を重点に取り組むこととしている。また、計画作成に際しては、広く職員の意見を聴き、必要な措置を講じていくこととしている。

心の健康づくりについては、引き続き、ストレスチェックやメンタルヘルス教育の実施により心の不健康な状態の未然防止に取り組むとともに、健康管理医（精神科医）やカウンセラーによる心の健康相談を実施する。職員の職場復帰に当たっては、人事院の指針に沿った円滑な職場復帰支援策を進めていく。

## (3) ハラスメントが行われない職場環境の整備について

ハラスメントについては、一般的に、職員の人格と尊厳を侵害し、勤労意欲を減退させるほか、職場内の秩序を乱し、職場の活力低下を招くなど、職場環境が害される要因となるものであり、その防止に努めていく必要がある。

ハラスメントの防止に当たっては、管理者・職員の双方において、ハラスメントに関する問題意識と具体的な行為に関する認識を共有することが重要であり、各種の会議や研修等の機会を捉えて周知啓発を図るなどして、良好な職場環境づくりに努めていく考えである。